
お化け屋敷

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お化け屋敷

【Nコード】

N2613Q

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

憧れのAちゃんとお化け屋敷に行くことになった。

今日は僕が密かに思いを寄せている同級生のAちゃんと遊園地デートをする日だ。

なぜ遊園地デートを選んだのかというと、狙いはたった一つ。お化け屋敷だ。

いわゆる吊り橋効果ねらいで僕に惚れさせちゃおうという目的だ。お化け屋敷を利用して怖がるAちゃんとスキンシップを図るという意図もまあ少しはあるけれど…

怖がつて僕にしがみ付いてくるAちゃん、ふん、大丈夫さとさりげなく声をかける僕。

お化け屋敷の緊張でドキドキしているAちゃんはいつもより頼もしい僕を見て

「はっ、これが恋なんだわ…」と錯覚する。

お化け屋敷を出る頃には間違いなくAちゃんの目はハート型になっているはずだ。

その確信があるのは事前の調査でAちゃんはお化け屋敷系が大の苦手だという情報を

掴んでいたからだ。

「私お化け屋敷ってほんと駄目なのよ…意味が分からないわ。

だって普段道歩いててゾンビが襲い掛かってくることなんかないでしょ？

怖すぎるわ…泣いて迷惑かけるかも…」

完全に僕の勝ちだ。

このような完璧な計画の下、晴れて今日のデートの日を迎えたわけである。

そしていよいよ本番だ。

大丈夫、きつとここを抜けた時、栄光の勝利が待っている。

ここはお化け屋敷と言う名のビクトリーロードだ。

中に入ると僕の思惑通りだった。正確に言う想像以上だった。

「ギヤアアアアアア　なんでこんなところにゾンビがくるのよ
!!!!

ウキヤアアアア　さわらないでえええええ　し、死ねええ
え!!」

「だ、大丈夫だよAちゃん…」

「う、うん。こ、こわいよお」

Aちゃんが健気に僕のジャケットの隅っこをぎゅっと握り締めている。

ただAちゃんがここまでお化け屋敷が苦手とは…

お化けよりもAちゃんの声の方でびっくりしてしまった。

ところが予想外のことが起きた。

Aちゃんがシクシク泣いているのに中盤から終盤にかけて

僕の前をずんずんと歩き出したのだ。

あまりの怖さに神経がイカれてプチ切れてしまったのか。

きつと早く終わらせたいんだろう。

今までずっとAちゃんにかっこ悪い姿は見せられないと思っていた
たから

お化けのことなんてあんまり考えていなかったが

後ろになって冷静になったら結構怖いもので僕はAちゃんばりに

「ウギヤアアアア」と声を出してしまった。実は僕は結構チキン
なのだ…。

そんなこんなでお化け屋敷は終わった。

Aちゃんは顔を真っ赤にして怒っていた。

「まったく何なのよ！怖すぎるわよつ。あんなのお化け屋敷じゃなくて

正確に言えばほとんどお化けの格好をしたアルバイト店員が暗闇から急に飛び出てきて

驚かせる屋敷じゃない！」

「まあね…前半はそうだったけど、でも後半は結構感じが違ってまた怖かったじゃん

Aちゃんもあまりの怖さでシクシク泣いてるのに早く終わらせたいから

ずんずん行っちゃってたしさ」

「え？シクシク泣いてなんか無いわよ？後半は余裕だったわ…

私、本物の方は見慣れてるから」

「……」

ドキドキ…これが吊り橋効果か

僕はAちゃんをますます好きになってしまったようだ…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2613q/>

お化け屋敷

2011年1月26日08時43分発行